



# 瀬戸市【愛知県】 歴史文化基本構想

■ 策定年月：平成29年2月 ■ 人口：130,047人 ■ 面積：111km<sup>2</sup>  
■ 担当課：瀬戸市 交流活力部 文化課（平成30年3月現在）



瀬戸市は千年以上の窯業の歴史を持ち、「陶都」とも呼ばれる都市である。その背景には、窯業生産に適した豊かな自然資源や環境や、尾張・三河・美濃三国の境界地であるため各地の文化を取り入れてきた歴史などがある。こうした歴史や文化を示す市内の文化遺産を総合的に把握し、瀬戸市特有の風土も踏まえ、関連文化財群を8つのストーリーにまとめている。

## 5 歴史文化を表す つのキーワード

窯跡、陶器生産、磁器生産、  
尾張・三河・美濃三国の境界、オオサンショウウオ

### 課題

- ・文化財、文化遺産が有する多様な価値の顕在化
- ・文化財・文化遺産を活かした地域の活性化
- ・地域の多様な主体の連携による保存・活用の推進

### 保存活用方針

- ・文化財・文化遺産の総合的把握と価値の共有化
- ・文化財・文化遺産の適切な保存・管理
- ・次世代への継承、防犯・防災対策
- ・魅力情報の発信、公開・活用の推進

## 保存活用のための取り組み

### 文化財・文化遺産の総合的把握 と価値の共有化

文化財把握のための調査・研究を実施するとともにそれを行うための専門職員の充実を図る。また、歴史文化データベースを構築し、その情報公開を積極的に行うほか、「まちめぐり」などによる文化財の特別公開を進めることにより、文化財の価値を共有化する。



### 文化財・文化遺産の適切な保存・管理

重要な文化財・文化遺産の保護・継承のため指定や登録を積極的に推進し、それらの現状と課題を把握することで保存活用計画を策定する。また、文化財所有者への啓発、保存・修理に対する支援の強化など、文化財の周辺環境を含めた保全を推進する。

### 次世代への継承、防犯・防災対策

市民が愛着を持って文化財の維持・管理に参加し、それを行政が支援する制度等のしくみづくりを推進するとともに、瀬戸市の歴史文化に関わる技術を継承する伝統技能者を育成する。また、文化財の防犯・防災体制の強化、地域との連携による防犯対策・耐震対策の推進を図る。



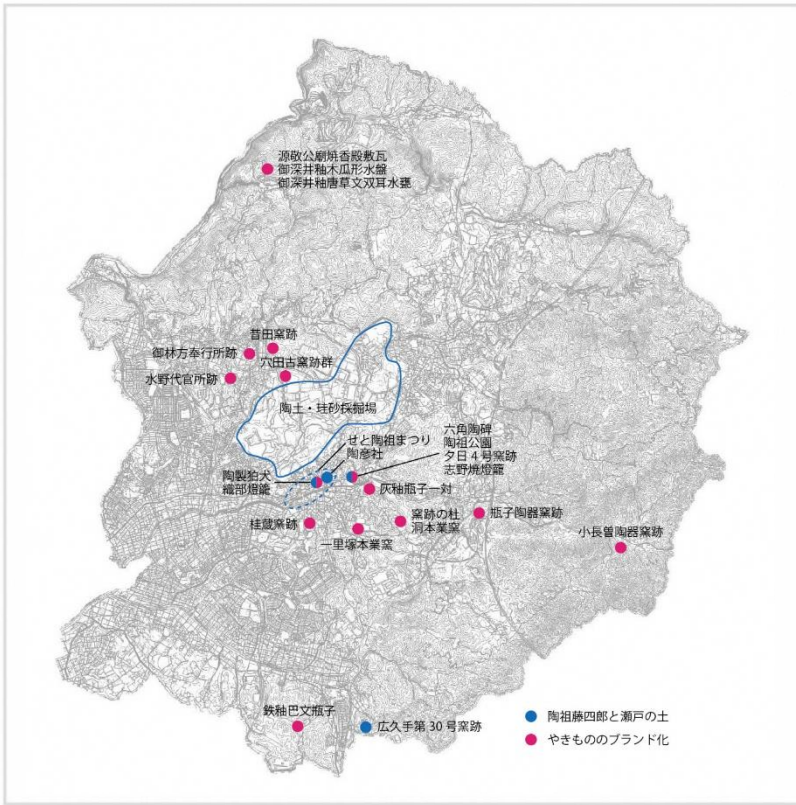
### 魅力情報の発信、公開・活用の推進

展示施設や案内板の設置、ガイドブックやガイドマップの作成などのほか、ボランティアガイドの育成やSNSの活用などにより、文化財の魅力情報の発信を図る。また、文化財をまちづくりの拠点施設として活用するための保存・修理を行い、公開活用を行う。





## 関連文化財群



瀬戸市の歴史文化の最大の特徴である「やきもの」を軸とし、地場産業としてだけでなく国内外における陶磁器文化を構成する要素と捉え、やきもの生産に係る歴史・文化遺産を5つのテーマに分けて関連文化財群としている。また、その背景となる街道、自然、祭りについてもそれぞれをテーマとする関連文化財群としている。

### ストーリー

- ① 陶器のふるさと～せともの誕生～
- ② せともの産業革命～磁器生産～
- ③ 世界に羽ばたいたせともの
- ④ やきもののみちからCreative Cityへ
- ⑤ 職人文化とやきものが息づくまち
- ⑥ 街道と交流～三国の境～
- ⑦ 自然との共生～豊かな自然と再生～
- ⑧ 地域と祭り～伝統の継承と人々の交流～



## 策定後の成果（見込まれる効果）

### ① まちのブランディング

「せともの」はやきもの代名詞となっているが、瀬戸市で作られていることが十分に知られていない。まちの知名度を高め、その魅力を効果的に発信することで国内外よりやきものに関心を持つ観光客を呼び込む。また、祭りや伝統的な行事の観光資源化を図り、何度も訪れたいような効果を見込む。



### ② シビックプライドの醸成

まちめぐりイベントなどへの参加を通じて市民が改めて市の歴史文化を知り、市民が瀬戸市に対して「誇り」や「愛着」を持ち、自分もこのまちを形成している一人であるという認識のもと、まちをよりよくしていくための取り組みに関わろうとする当事者意識＝シビックプライドの醸成を見込む。



### ③ ものづくり文化の継承

瀬戸市にはやきものに関わるツクリテをはじめ、ガラスや木工、デザインなどの幅広い分野で活動するツクリテが集まる土壌がある。瀬戸市の歴史文化の中核であるやきものを軸に、ものづくりの歴史を背景としたアートやクラフトのまちとしての個性を伸ばすことを見込む。

